

2025 年度 授業コード: 21109823

授業科目	＊成人急性期看護学実習(2023 年度入学生)					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	0	開講時期	後期・前期
担当教員	高橋 甲枝／財津 倫子						
授業概要	実務家教員として、急性期病院における看護師経験を有し、消化器外科、整形外科、呼吸器外科、心臓外科等にて臨地実習の指導経験をもとに実習指導を行います。 実習目的 1. 急性期・回復期にある患者の特性を理解し、術前から術後の過程において、患者およびその家族に応じた看護を実践できる能力を養う。 2. 急性期の看護の実践を通して、生命の危機的状況とその後の回復過程を知り、早期回復および障害に応じた生活の自立に向けて援助できる能力を養う。						
授業形態	対面授業			授業方法	実習		
学生が達成すべき行動目標							
標準的 レベル	1. 急性期・回復期にある患者を総合的にとらえ説明することができる。 2. 急性期・回復期にある患者の看護上の問題を明らかにし、看護過程の展開を行うことができる。 3. 医療チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方について考えることができる。 4. 継続看護の必要性及びそのために活用できる社会資源について説明することができる。 5. 急性期・回復期にある患者および家族への援助を通して、思考を深め自己の看護観を述べるができる。 6. 看護専門職としての責務を認識し、倫理的配慮に基づいた行動ができる。						
理想的 レベル	・急性期・回復期の疾病を十分に理解したうえで、エビデンスを踏まえたアセスメントのもと、患者の看護上の問題を明らかにし、個別性のある看護過程の展開を行うことができる。 ・手術を受ける患者を取り巻く状況や看護の役割について理解するとともに、病棟・手術室・ICUでの看護の継続性が理解できる。 ・医療チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方について考えることができる。 ・継続看護の必要性およびそのために活用できる支援について説明することができる。 ・急性期・回復期の実習を通して、自己の看護観を深め、自己の課題を明確にできる。 ・看護専門職としての責務を認識し、倫理的配慮に基づいた行動ができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験							
小テスト							
レポート							
発表（口頭、プレゼンテーション）							
レポート外の提出物			40			0	
その他			60			実習態度 看護実践	

